

2024 年 IEC トーマス・エジソン賞を受賞して

IEC SC 86B 国際幹事
NTT アドバンステクノロジー株式会社
富田 茂

2024 年 10 月 21 日から 25 日まで Edinburgh, Scotland, United Kingdom にて IEC 総会が開催されました。会期初日の標準管理評議会 (SMB: Standardization Management Board) において、SMB 議長 (IEC 副会長) の Mr. Vimal Mahendru 氏から 2024 年 IEC Thomas A. Edison Award を拝受いたしました。

この賞は 2010 年に創設され、IEC における TC/SC などの委員会の国際議長や国際幹事の中から、委員会の効率的な運営を通じて顕著な成果を挙げた人物や、IEC に献身的なサービスや顕著な貢献をした人物に与えられるもので、今年は 5 名が受賞しました。このような権威のある賞をいただき大変光栄に思います。

私の受賞は SC 86B (光部品) の国際幹事としての貢献が評価されたものです。これも、ひとえに SC 86B 国内委員会、経済産業省 国際電気標準課、国内審議団体である (一社)電子情報通信学会、IEC-APC 事務局の皆様、そして SMB 関係者の皆様のご支援、ご協力の賜物です、心より感謝申し上げます。

SC 86B はその上部組織である TC 86 (光ファイバ) のもとで、光ファイバコネクタ、光受動回路をはじめとする各種の光部品を対象としています。光部品に関連する標準化は、まだ、発展途上にあり、毎年多くの規格 (約 10 件/年) が作成されています。

私は、2015 年から約 9 年間 SC 86B 幹事を務め、この間に約 100 の規格類 (IS, TS, TR など) の開発に携わり、また約 30 の新規プロジェクト、約 70 の改定プロジェクトの提案も行ってきました。このような多くのアウトプットを得るには、SC 86B のメンバーをはじめとする関係各位の日々の多大な努力と貢献が必須であります。特に、COVID-19 が流行した 2020 年から 2021 年にかけては、光部品標準化の歩みを止めないため、国際幹事として、毎年、それぞれ 20 日以上に渡



<左: 富田 SC 86B 国際幹事、右: Mahendru SMB 議長>



<本年に受賞された皆様ともに>

る完全リモート SC 会議および WG 会議を開催することを企画、指揮させていただきました。地域によっては、早朝または深夜の開催となるリモート会議にご出席いただき、真摯な議論をかわした皆様には深く御礼申し上げます。

私の任期中には、現在全世界で利用されている MPO (Multi-fiber Push On) コネクタの標準化を進めることができました。MPO コネクタは日本で開発され、2015 年以降のデータセンタビジネスの急速な拡大に伴い、そこで使用される高速光 LAN 通信の光インタフェースとして採用されることで、データ処理の高速化に大きく寄与しています。また、光ファイバコネクタ規格体系を、シングルモード光ファイバコネクタ、マルチモード光ファイバコネクタ、マルチコア光ファイバコネクタの 3 つに分類し、光コネクタ光学互換標準の煩雑化を解消することにも寄与できたと考えております。さらに、SC 86B と技術領域が近い ITU-T SG 15 と緊密な連携を図り、光ファイバ相互接続装置及び受動部品の規格改定では、同時期に制定された ITU-T L.206 との完全な技術的整合を実現できました。以上の成果は、特に国際副幹事として支えていただいた阿部宜輝（現 九州産業大学教授）氏と小山良氏との協働によって成し遂げられたものです。

最後に、ご推薦を頂いた TC 86 国内委員会、IEC-APC、経済産業省、SMB の関係者皆様にお礼申し上げます。今後も、IEC のさらなる発展に微力ながら尽力していく所存です。引き続き皆様からのご指導ご鞭撻を頂戴いたしたく何卒よろしくお願ひ申し上げます。ありがとうございました。

以上

参考: IEC ホームページ "IEC announces Edison Award winners"

<https://www.iec.ch/blog/iec-announces-edison-award-winners-0>